



2020年4月20日

奥迪ジャパン株式会社  
プレスサイト <http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120-598-106  
奥迪コミュニケーションセンター

## 奥迪、欧洲での生産を徐々に再開

- ヨーロッパの奥迪工場は、今月末までに徐々に通常の状態へ復帰
- 生産担当取締役のペーター ケスラー：「安全な作業環境に焦点を当てる」
- 総労使協議会議長ペーター モッシュ：「従業員の健康を守るために数多くの対策を講じている」

**2020年4月17日、インゴルシュタット：**奥迪は、今後数週間で、ヨーロッパの工場における生産を徐々に再開します。3月中旬に、奥迪はヨーロッパの拠点における生産を一時的に停止することを発表しました。決定の背景には、部品供給の問題と新型コロナウイルスが引き起こしたパンデミックによる需要の減少がありました。世界中の奥迪生産ネットワークにおける今後の再開予定に関しては、サプライヤーおよびサービスプロバイダーを含めて、フォルクスワーゲングループと調整の上で決定します。生産再開における重要な要素は、従業員の安全に焦点を当てた包括的な対策を策定することです。この点において、奥迪は、ロベルト コッホ研究所のガイドラインおよび各国の保健当局の規制を遵守します。

欧洲におけるAUDI AGの全工場の生産が停止された後、現在、正常化に向けて最初のステップを踏み出す準備が進められています。生産担当取締役のペーター ケスラーは、次のように述べています。「私たちは、ヨーロッパ全体で歩調を合わせて生産を再開します。その理由は、サプライチェーン、生産、物流プロセスが、グループ内および国際的に事業展開するパートナーと密接に関連しているためです。その焦点は、安全な作業環境が必要な従業員に当てられています。そのため、奥迪の専門家チームは、専門の部署や労使協議会と話し合って、従業員の保護を最優先したプロセスを採用しました。この困難な時期に、生産再開に向けて柔軟に一丸となって努力を続けている、奥迪の全従業員および世界中のパートナーの皆様に感謝いたします。」

総労使協議会議長のペーター モッシュは、次のように説明しています。「操業開始の最初の段階では、従業員を保護するための感染予防策が最優先事項となります。工場の再開には、従業員の健康を確実に守るために包括的な対策が実施されます。」この対策には、例えば、徹底した衛生管理、人と人との距離に関する明確なルール、接触を回避するためのシフトシステムの変更、および1.5メートルの距離を保つことが不可能な場所における口と鼻の保護が含まれます。奥迪は、職場における物理的なバリアを作りました。例えば、ドアの組み立て作業では、2名の従業員が同じ輸送ラックで同時に作業し、互いに直接向かい合って立っています。ここでは、従業員自身によって、プラスチック製のシートによる透明なバリアが開発されました。

製造部門およびグループのマネージャーは、労働安全、ヘルスケア、産業工学、労使協議会の専門家とともに、個々の職場を調査・分析して、改善のための提案書を作成しました。関係者全員が同意することによって、その職場は初めて「新型コロナ対策済み」と見なされます。ワークグループはまた、作業環境（グループスペース、工場のゲート、駐車スペース、工場内の人の出入り、ケータリングおよび工場の社員食堂）を詳しく調べました。奥迪は、すべての分野に適した解決策を作成しました。従業員はこれらの対策について事前に書面で通知され、作業を再開する際は、ラインマネージャーから包括的な安全指示を受けるほか、社内のオンラインメディアや工場内で通知される数多くの情報を通じて、定期的な情報アップデートを受け取ります。

包括的な安全上の注意および変更された作業規則は、工場だけでなくオフィスにも適用されます。例えば、感染のリスクを最小限に抑えるための在宅勤務の実施などが挙げられます。しかし、生産の再開によって何より影響を受けるのは、生産現場の従業員です。

アウディの拠点における車両の生産は、策定された計画に従い、4月末以降に順次拡大される予定です。既に再開されているハンガリー ジェーレのエンジン生産は、今週徐々に増加し始めました。またドイツ国内の工場の従業員に対しては、生産の本格的な再開までの間、短時間労働規定が引き続き適用されます。

※本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。